

問1 銅鐸が主な役割として使われた、豊作を祈るなどの行事を何という？

1. 狩り 2. 戦い 3. 交易 4. 祭り

問2 弥生時代に北部九州を中心に多く出土している、中国から輸入された鏡を何という？

1. 三角縁神獣鏡 2. 画文帯神獣鏡 3. 漢鏡 4. 方格規矩鏡

問3 福岡県の志賀島で発見された金印を授けた、弥生時代の中国の王朝を何という？

1. 前漢 2. 後漢 3. 魏 4. 西晋

問4 高床倉庫の柱に取り付けられた、ネズミが倉庫の中に侵入するのを防ぐための工夫を何という？

1. ネズミ返し 2. 茅葺き 3. 高床 4. 掘立柱

問5 佐賀県に位置し、環濠集落の中でも大規模で、高床倉庫や物見やぐらが復元されていることで知られる遺跡は何という？

1. 菜畑遺跡 2. 吉野ヶ里遺跡 3. 登呂遺跡 4. 唐古・鍵遺跡

問6 弥生時代に大陸から伝わった金属器のうち、農具や武器として実用的に使われたものを何という？

1. 土器 2. 石器 3. 鉄器 4. 青銅器

問7 弥生時代に祭礼の道具として用いられ、指導者の地位の高さを示す象徴となった釣鐘状の青銅器を何という？

1. 銅矛 2. 鏡 3. 銅剣 4. 銅鐸

問8 邪馬台国の卑弥呼が魏の皇帝から贈り物を受けた様子など、当時の日本の様子が詳しく記されている中国の歴史書を何という？

1. 魏志倭人伝 2. 日本書紀 3. 風土記 4. 古事記

問9 弥生土器の名称の由来となった、最初に見つかった場所は現在の何という地名？

1. 飛鳥 2. 本郷 3. 向ヶ岡 4. 弥生町

問10 弥生時代、奴国の使者が金印を授かった、当時の中国の王朝を何という？

1. 隋 2. 魏 3. 後漢 4. 前漢

問11 1世紀に日本の奴国の王から使者が送られた際、返礼として金印を授けた後漢の皇帝は誰？

1. 武帝 2. 光武帝 3. 始皇帝 4. 玄宗

問12 福岡県の志賀島で発見され、1世紀に中国の皇帝から日本の王が贈られたことを示す重要な遺物を何という？

1. 金印 2. 銅鏡 3. 銅矛 4. 銅鐸

問13 弥生時代に大陸から伝わり、銅剣や銅矛などの作成に用いられた技術のことを何という？

1. 木器 2. 石器 3. 土器 4. 金属器

問14 弥生時代に大陸から伝わり、武器としてではなく、祭祀や儀式の際に用いられた青銅製の釣り鐘型の道具を何という？

1. 銅剣 2. 銅鐸 3. 鏡 4. 銅矛

問15 1世紀、後漢の時代に倭の奴国の王が使節を送った際に、その権威を認めて印を授けた皇帝を何という？

1. 始皇帝 2. 玄宗 3. 光武帝 4. 武帝

答え合わせ・解説

問1	答え 4 祭り	銅鐸は、このような祭りの場で、神聖な音を出したり、掲げられたりすることで、人々を統率し豊作を祈るために使われました。祭りは単なるレクリエーションではなく、集落の人々を結びつける政治・宗教的なイベントでした。
問2	答え 3 漢鏡	漢鏡は、中国の漢王朝で鑄造された銅鏡で、高い鑄造技術による精巧な文様が特徴です。これらは日本の首長たちにとって、自身の権威を内外に示すための貴重な贈り物や財宝として大変珍重されました。
問3	答え 2 後漢	志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印は、1世紀頃、後漢の光武帝が日本の使者に授けたものと考えられています。これは日本が中国の王朝から外交上の承認を得ていたことを示す重要な証拠です。
問4	答え 1 ネズミ返し	高床倉庫は、湿気やネズミの被害を防ぐために床を高くした建築物です。柱の途中に板状の出っ張り（ネズミ返し）を取り付けることで、地面から登ってくるネズミがそれ以上進めないように工夫されていました。
問5	答え 2 吉野ヶ里遺跡	吉野ヶ里遺跡は、周囲に深い堀（環濠）を巡らせ、外敵の侵入を防ぐ構造を持つ大規模な集落跡です。敷地内には高床倉庫や物見やぐら、王の住居と見られる建物などが再現されています。
問6	答え 3 鉄器	鉄は青銅よりも硬く丈夫であるため、刃先として農具（鋤・鍬）や武器（剣・矛・鏃）などに加工されました。鉄製農具の普及により、土地の開墾や灌漑施設の整備が効率的に行われるようになり、収穫量が大幅に増大しました。
問7	答え 4 銅鐸	銅鐸は青銅製の釣鐘状の道具で、当初は小型でしたが、次第に大型化しました。表面には稲作の様子や動物、自然などの絵が描かれることもあり、当時の人々の信仰心や芸術性を伝えています。
問8	答え 1 魏志倭人伝	魏の歴史をまとめた『魏志』のうち、東夷伝という章に倭人に関する記述があり、一般に『魏志倭人伝』と呼ばれます。当時の日本の社会情勢、邪馬台国の卑弥呼の様子、生活習慣などが記録されています。
問9	答え 4 弥生町	1884年、東京都文京区の弥生町で特徴的な土器が発見されました。縄文土器とは異なる、薄手で赤褐色をしたこの土器は、発見地の名前をとって「弥生土器」と名付けられました。これが弥生時代という名称の直接の由来となっています。
問10	答え 3 後漢	57年、九州の奴国の使者が中国の王朝である後漢の皇帝を訪れ、朝貢を行いました。当時の皇帝である光武帝は、その使いに対して「漢委奴国王」と刻まれた金印を贈りました。
問11	答え 2 光武帝	当時の日本の「奴国」の王が、後漢の都に使者を派遣しました。それに対して、皇帝である光武帝は、親交のしるしとして「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けました。これは当時の日本が中国の王朝から「倭の国の一つ」として公的に認められた歴史的な出来事です。
問12	答え 1 金印	1784年、福岡県の志賀島で農夫によって発見されました。印面には「漢委奴国王（かんのわのなのこくおう）」と刻まれており、中国の後漢書にある記述と一致します。これは、当時の日本が既に中国の皇帝から「王」として認められる外交交渉を行っていたことを裏付けています。
問13	答え 4 金属器	金属器には主に銅製品（青銅器）と鉄製品がありました。青銅器は、銅剣や銅矛、銅鐸のように主に祭りや儀式のための道具として用いられ、集団の結束を高める役割を果たしました。一方で鉄製品は、農具や武器として実用的な側面が強く、当時の生産性向上や戦闘の激化に寄与しました。
問14	答え 2 銅鐸	銅鐸は、主に近畿地方を中心に分布しており、弥生時代の村の共同体で行われる祭りや儀式に使われたと考えられています。初めは小型で実際に鳴らしていましたが、時代が進むにつれて大型化し、文様が描かれるようになり、神聖な祭器として祭りの場に立てられたり、埋められたりしました。
問15	答え 3 光武帝	『後漢書』東夷伝によれば、57年に倭の奴国の使者が後漢の光武帝に謁見し、朝貢しました。その際、光武帝は奴国の王に対し「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けたとされています。